

★最新介護医療情報★

母の名記さず出生届提出へ 初の「内密出産」見通し (共同通信社 2022.2.7 配信)

熊本市の慈恵病院は4日、病院以外に身元を明かさず出産できる事実上の「内密出産制度」で、利用を望む10代女性が昨年末に出産した子どもの出生届について、現時点で母親の名前を記さずに提出する見通しを明らかにした。国内初事例になるとみられる。

病院が記者会見で表明した。女性と連絡を取り続けていたが、出産から約1カ月が経過しても制度利用の意向は変わらなかった。病院は1月13日、母親欄を空白にして出生届を代理で出した場合、刑法に抵触するかどうかを問う質問状を熊本地方法務局に提出。2月末までに回答するよう求めている。会見では、子どもが2月初めに乳児院に預けられたことも明らかにした。女性は、病院の担当者に預けた自身の身元情報について「子どもが18歳か20歳になったら開示してほしい」と希望。女性は子どもが他の人と特別養子縁組をすることを望んでおり、病院は成立に向けた手続きを進める。

女性は病院に「産ませてくれてありがとう。赤ちゃんが助かって良かった」との気持ちを示した。病院側は、この女性を含め制度を利用する女性が、匿名で子どもに乳児院で面会可能かを市に確認。市は、病院が仲介するなどの方法で対応できると回答したという。

蓮田健(はすだ・たけし)院長は会見で「母子の安全な出生・出産は達成できた。残る課題は、子どもの養育の受け皿や出自情報の管理をどうするか」と行政への協力を求めた。大西一史(おおにし・かずふみ)市長は「法制度が確立されていない中だが、生まれてきた子どもは健やかに、幸せに成長できるように全力で取り組む」とコメントした。

病院は2019年末に独自の内密出産制度を導入。今年1月4日、西日本の10代女性が昨年12月に出産したと公表した。



コロナ飲み薬承認申請へ 塩野義、「良い手応え」と社長

(共同通信社 2022.2.8 配信)



塩野義製薬の手代木功(てしろぎ・いさお)社長は7日、開発中の新型コロナウイルス感染症の飲み薬について、来週から再来週にかけて承認申請する可能性がある」と明らかにした。手代木氏は同日、東京都内で記者会見し、臨床試験(治験)の途中段階の結果について「非常に良い手応えを感じている」と述べた。承認申請すれば、国内の製薬会社の新型コロナ飲み薬としては初めてのケースとなる。

同社は3段階ある治験のうち2段階目の治験結果を近く取りまとめ、早期の実用化が可能な「条件付き早期承認制度」の適用を求める意向。実用化の具体的な時期は「国の判断次第」としつつも、2月末から3月上旬の供給開始を視野に入れているとした。2月末に40万～50万人、3月末までに100万人分程度の提供が可能だという。

開発中の薬はウイルスが人の体で増殖するのを防ぐと考えられている。軽症から中等症の感染者の服用が想定されており、重症化のリスクがあるかどうかにかかわらずに使えるのが特徴だ。同社はこれまで軽症から中等症の感染者47人を対象に分析。薬を5日間投与したグループでは偽薬を飲んだ場合に比べ、抗ウイルス効果や症状が改善する傾向が確認された。また薬を投与したグループで重症化した人はいなかったが、偽薬では2人が重症化した。

コロナ治療薬を巡っては、厚生労働省が2020年5月、米製薬会社が開発した抗ウイルス薬「レムデシビル」を申請の3日後に特例承認。飲み薬「モルヌピラビル」は21年12月、申請から20日程度で特例承認した。

厚労省によると、条件付き早期承認制度は、希少疾病など有効な治療法が乏しい病気の医薬品が対象。患者数が少なく治験の実施に相当の期間が要する場合などには、一定程度の有効性や安全性が確認できれば最終段階の治験を行わずに早期に承認申請することができる。